

## 『魂の戦い』

ご覧になった方もおられると思いますが、4月9日土曜日にボクシング・世界ミドル級王座統一12回戦が「さいたまスーパーアリーナ」で行なわれました。WBA世界ミドル級スーパー王者の村田諒太選手とIBF王者のゲンナジー・ゴロフキン選手(カザフスタン)との対決でしたが、結果はゴロフキン選手の9回TKO勝利に終わりました。



この試合は昨年12月29日に開催される予定でしたが、政府のオミクロン株対策によりゴロフキン選手が入国できず延期となっていました。

村田選手はロンドンオリンピックで金メダルを獲得後プロに転向し、今や世界のトップにまで登り詰めた選手ですが、現在36歳でアスリートとしてはベテランといえます。

対戦相手のゴロフキン選手は試合前日になんと40歳の誕生日を迎えており、この年齢でトップを維持し続けていることはまさに素晴らしいの一言です。しかも戦績は43戦41勝1敗1引き分けで、この敗戦と引き分けも、カネロ・アルバレス選手(メキシコ)が相手であり、アルバレス選手は、全ての階級で体重のハンデを考慮してのランキングであるパウンドフォーパウンドランキング(PFP)1位に君臨していますが、この試合も実はゴロフキン選手が勝っていたのでは?ともいわれています。ゴロフキン選手も以前はPPF1位を続けていました。ちなみに日本の誇るバンタム級王者の井上尚弥選手は現在4位です。

このような伝説的強豪を迎えての国内での試合は、あのマイク・タイソン選手以来でもあり、なかなか見ることはできません。今回の戦いはまさに「世紀の一戦」ともいえます。

村田選手は試合序盤は的確なパンチで優勢に進めたラウンドもありましたが、結果は善戦むなしく敗戦となりました。しかし、その戦いは見るものに感動を与えました。試合後の両者のコメントもお互いに対する敬意が伝わり本当に素晴らしいものでありました。

一説によれば、村田選手はこの試合で引退すると聞きます。彼のような実力に加えて、高い人間性を備えた選手には引き続き現役を続けてもらいたいともいますが、ボクシングのような激しいスポーツと年齢を考えればやむを得ない決断かもしれません。

この試合をまだ観られていない方は、結果はわかっている試合ではありますが、ご覧になることをお奨めします。本当に感動的な「魂の戦い」であったと思います。